

演題名	採卵成績向上のための供卵牛確保の試み		
発表者 氏名	小野垣 真 美	所 属	飯田家畜保健衛生所
<p>受精卵移植（E T）における採卵成績の向上を図るために、採卵成績の良好な「ひろこ号」の娘牛に対して採卵を実施し、管内成績と比較検討。</p> <p>過剰排卵処理は、漸減投与法によりF S H（アントリン：デンカ製薬）を経産牛で24～30A U、未経産牛で20～24A U、性周期の9～12日目から投与を開始。F S H投与3日目にP G F 2（プロナルゴンF：アップジョン）50mgを2回に分けて投与。発情時に2回人工授精を行い、発情発現日を0日として7～8日目に非外科的に採卵を実施。</p> <p>「ひろこ号」は昭和61年生まれの黒毛和種。採卵成績は、初産次に5回実施し、平均回収卵数は11.6個（8～19個）、平均正常卵数は10.8個（6～19個）、2産次には4回実施し、平均回収卵数は24.0個（16～45個）、平均正常卵数は21.0個（14～37個）。</p> <p>また、「ひろこ号」の娘牛6頭は、全てE Tにより生産され、採卵開始月齢は13～27月、6頭のうち5頭は未経産時から実施し、1頭当たり1回～5回、合計17回実施。平均正常卵数は10.8個であり、産歴別では未経産時で9.3個、初産次で13.0個。</p> <p>管内で現在までに実施した他の供卵牛による426回の採卵成績は、平均正常卵数が4.2個であったことから、「ひろこ号」とその娘牛の採卵性は特に優れたものと考えられ、採卵成績の良好な母牛由来の娘牛を供卵牛として利用することは、優れた供卵牛を確保する方法として有効であると考察。</p>			